

# 世界の「交流拠点都市金沢」の実現

～市民が創る誇りあるまち～

金沢市は、本州のほぼ中央に位置する人口約46万人の中核市です。その基礎は、今から420年以上前、この地を統治した加賀藩主前田家によって確立されました。歴代藩主は、争いを避け、学術や文化を奨励したため、現在に至るまで、まちは戦禍に遭わず、往時の遺構やまちなみが残るとともに、伝統工芸や伝統文化が暮らしの中に息づいています。

先人達は、このようなまちの個性である歴史や伝統、学術、文化を大切に守り、磨き高めてきました。連綿と引き継がれたまちづくりの規範は、このまちに魅力と品格を与え、そのことによって「歴史都市」や「創造都市」として認められた本市は、現在、国内外の多くの方々から評価される存在になりつつあります。折しも、北陸新幹線金沢開業まで残すところ2年を切り、交流の拡大に向けて大きなチャンスが訪れています。

このような中、本市では、まちの将来像を市民と共有し、その具現化に戦略的に取り組んでいくため、「世界の『交流拠点都市金沢』の実現」を掲げた新たな都市像を、この3月に策定したところです。

ここで言う「交流拠点都市」とは、これまでに培われた金沢のストックを最大限に活用することにより、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けるまちのことです。

時代の変化に適切に対応しながら、世界の交流拠点都市をめざすには、言うまでもなく交流拠点機能を強化していく必要があります。都市像には、

本市の特性を活かしながら、その具現化につながる5つの重点方針を掲げました。

1つ目は、「技術力に裏打ちされた新たな産業の創出」です。本市には、伝統工芸をはじめとする独自の産業構造があり、ローカルでありながらも世界に伍していける地場産業があります。ここでの技術力を活かし、新産業の創出に努めるほか、起業家やクリエイター等のビジネスチャンスが広がる環境を整えていくとともに、産学官の連携により、既存の分野のみならず、先端的な分野を含めた多様な専門家や著名人を集め、交流を促すネットワーク拠点としての機能強化を図ります。

2つ目は、「まちの品格を高める学術文化の醸成」です。本市には、歴史や伝統、学術、文化など他都市にはない個性があります。このような歴史文化資産や高等教育研究機関の集積を活用し、学都にふさわしく、学生など若者たちが集い、学び、語り合えるまちをめざします。また、会議施設や情報インフラの整備を促進するなど、都心における国際コンベンション機能の充実に取り組むことにより、「MICE」<sup>マイス</sup>の積極的な誘致にも努めます。

3つ目は、「観光を軸とした交流の活発化」です。本市では、伝統文化のみならず、建築文化や現代美術などの面で新たな創造性を育んでおり、観光拠点としてのポテンシャルも高いことから、周辺自治体や関係都市と連携し、観光客の多様なニーズに対応できる魅力ある広域観光ルートの設定に取り組むとともに、固有の資源を活かした長期滞在型プログラムの開発やナイトカルチャーの充実、

金沢市長 <sup>やま の</sup> 山 野 <sup>ゆき よし</sup> 之 義



夜の賑わい創出等に努めます。また、スポーツを核にした交流を盛んにするため、2015年に「金沢マラソン」を開催するほか、市民スポーツの拠点となる城北市民運動公園の拡張整備を推進します。

4つ目は、「新幹線時代に対応した交通基盤の整備」です。北陸新幹線の金沢以西に向けての全線整備を促進するほか、アジアをはじめとする世界各都市との定期航空路を拡充するなど、小松空港のより一層の飛躍をめざします。また、金沢港の機能を強化するため、クルーズ船の寄港やコンテナ等の取扱量の拡大に取り組むとともに、後背地において港湾活用型企業の誘致を進めるなど、国際物流拠点や国際観光拠点としての機能の充実に努めます。

最後は、「あらゆる世代に対応した新たなコミュニティの形成」です。本市には、藩政期から培われた自治の伝統があり、現在でも、市民はまちへの愛着と連帯意識を持っています。このため、さまざまな分野において、市民やNPOなどがまちづくりに主体的に関わることができる環境を整え

るとともに、生涯学習機能を強化し、世代間の交流を通じた、共に支え合う社会の形成に努めます。また、防災・福祉・環境・教育分野における諸課題を解決していくためには、市民一人ひとりが社会の一員としての役割を理解し、力を合わせて支え合う体制を創っていくことが重要であり、地域や世代、公私を越えた交流を促進し、時代にふさわしい地域コミュニティの形成を図ります。

他方、交流拠点都市の基盤を築くためには、行政はもちろんのこと、市民にも「自立」が求められます。即ち、一人ひとりが社会の中での役割や他者との関わりをこれまで以上に意識していくことが重要であり、そうした市民との協働を進めることで、交流拠点都市を支える「誇りあるまち」につながっていくのです。

まちづくりは悠久ですが、市民主体による生き生きとした活動を実現できる都市として自立を図るとともに、都市機能の充実に図り、国内外との連携を強め、「交流拠点都市金沢」の実現にチャレンジしてまいります。

※MICEとは、ミーティング、インセンティブ、コンベンション、エキジビション・イベントを総称した用語である。これら個々の大まかな概念は下記の通りである。

- **ミーティング (M)** : 主に企業がグループ企業やパートナー企業などを集めて行う会議、大会、研修会等の会合 (=コーポレートミーティング)。
- **インセンティブ (I)** : 企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する旅行のことで、企業報奨・研修旅行と呼ばれるものである。
- **コンベンション (C)** : いわゆる国際会議であり、学会や産業団体、さらには政府等が開催する大規模な会議を一般的に指す。
- **エキジビション・イベント (E)** : 国際見本市、展示会、博覧会といったエキジビションとスポーツ・文化イベントなど大小さまざまなものが含まれる広範な概念である。